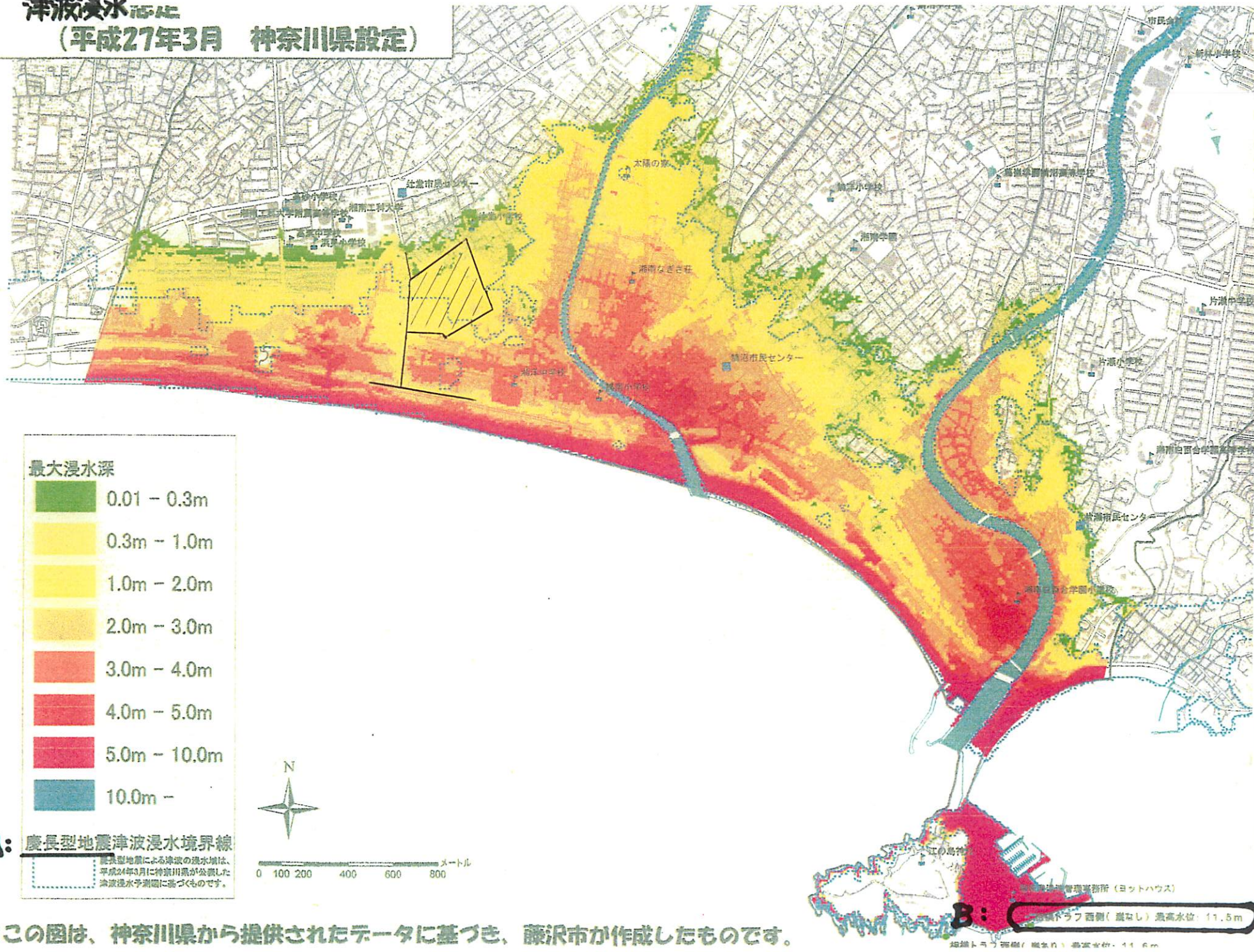


# 津波浸水想定 (平成27年3月 神奈川県設定)



※この図は、神奈川県から提供されたデータに基づき、藤沢市が作成したものです。

「国の検討会」から新たに示された地震	
対象津波	相模トラフ沿いの海溝型地震 (a 西側モデル、b 中央モデル)
使用モデルの説明	<p>「国の検討会」が公表したモデルのうち、神奈川県沿岸に影響が大きいと考えられるケース1 (西側モデル)、ケース2 (中央モデル) を選定。報告書では、「フィリピン海プレート形状や相模トラフ沿いの海底探査結果、フィリピン海プレート上面の微小地震活動等に基づき、最大クラスの震源断層域の範囲を求めた。東北地方太平洋沖地震の津波断層モデルを参考に、断層全体の約2割程度を大すべり域 (平均すべり量の2倍のすべり量) に、そのトラフ軸側 (10km以内) に超大すべり域 (平均すべり量の4倍のすべり量) を設定」とされている。</p> <p>・発生間隔：2千年から3千年若しくはそれ以上          ・前回発生時期：不明          ・切迫性 (今後30年以内の発生確率)：評価なし</p> <p>※「国の検討会」の報告書による</p>
マグニチュード	Mw=8.7
断層モデル図	地盤の鉛直方向変動分布
a 相模トラフ沿いの海溝型地震 (西側モデル)	
b 相模トラフ沿いの海溝型地震 (中央モデル)	

※地盤の鉛直方向変動分布は、地震による岩盤の破壊が終わった時点の変動量を示しています。そのため、破壊の過程では、図で隆起となっている地盤でも、沈降を生じることがあります。

津波断層モデルに変更のない地震	
対象津波	e 慶長型地震
使用モデルの説明	<p>平成23年度に神奈川県沿岸に影響が大きいと考え、再現ではなく、発生が想定される地震として設定した県独自モデル。相田 (1981) の1605年慶長東海地震の断層モデルを基に、本県にとって影響が大きく発生の可能性が考えられる地震として想定した。</p> <p>・発生間隔：評価なし          ・前回発生時期：不明          ・切迫性 (今後30年以内の発生確率)：評価なし</p>
マグニチュード	Mw=8.5
断層モデル	地盤の鉛直方向変動分布

※地盤の鉛直方向変動分布は、地震による岩盤の破壊が終わった時点の変動量を示しています。そのため、破壊の過程では、図で隆起となっている地盤でも、沈降を生じることがあります。